

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	東京都港区港南1-9-1 品川TWINSAネックスビル										
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 代表取締役社長 杉本 迪雄										
事業者の主たる業種	情報通信サービス業										
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））										
計画期間	平成 20年 4月 ～ 平成 23年 3月										
基本方針	平成19年度を基準に、エネルギー消費効率の運用改善（照明器具・空調設備）、CO2排出量の削減を目指す。										
推進体制	社長を対策事業最高責任者とし、エネルギー管理士、対策推進責任者、推進員の体制を設置し、エネルギー管理士指導の下、実施計画策定、目標に向けた進捗管理を行う。										
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001									
	適用範囲										
	取得年月日	平成14年取得									
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容								
	20	省エネ型照明器具更改	遮光口及び通路誘導灯を省エネ型に更改し、照明消費電力の削減を図った。（6,623kwh削減）								
	21	中規模な設備更改・変更	換気ファンモーターの回転数制御（34,292kwh削減）								
	22	大規模な設備・変更	高効率空調機MACSVを導入（141,493kwh削減）								
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）					
	A 事業所等排出区分	3,291.0 t	3,133.0 t	-4.8 %	3,291.8 t	0.0 %					
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%					
	C その他排出区分	t	t	%	t	%					
	排出合計	*1 3,291.0 t	*2 3,133.0 t	-4.8 %	*4 3,291.8 t	0.0 %					
	実績に対する自己評価	前年度増加した分のCO2排出量が、ほぼ基準年度並みまでの排出量へ削減した。前年度実施した照明更改と本年度の換気制御実施により影響が現れてきたもとと考える。									
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）				
	京都百九条ビル	二酸化炭素換算 原単位面積 二酸化炭素換算	0.00487 t-CO2/m ²	0.00485 t-CO2/m ²	-0.4 %	0.00507 t-CO2/m ²	4.1 %				
		二酸化炭素換算			%		%				
		二酸化炭素換算			%		%				
	実績に対する自己評価	データセンター需要の拡張によるシステム増（10月より電力供給システム：21→今年度：33（12システム増））。しかし、システムのコンパクト化による必要面積が縮小となっているが、熱量は大きくなったことから原単位は増加した。（前年度比では減：前年=0.0518 約2%減）									
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）							
		取組量等		取組量等							
		（二酸化炭素換算）		（二酸化炭素換算）							
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t		
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t		
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t		
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t		
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t		
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t		
	削減量等合計			*3	t			*5	t		
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	*1 3,291.0 t	目標年度（計画）	(*)2-(*)3 3,133.0 t	増減率（計画）	-4.8 %	報告年度（実績）	(*)4-(*)5 3,291.8 t	増減率（実績）	0.0 %
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	東京都農林水産振興財団が行っている「花粉の少ない森づくり運動」の一環である『企業の森』に協賛し、2009年2月23日に協定を締結する。「企業の森・NTTコムウェア（青梅）」と命名し、森全体では、杉やヒノキを中心に広葉樹も含め約6500本を植樹し、今後10年間にわたる、これらの森林整備費用を負担し、下刈りなどの保全活動も社員の手で行っている。（28,800㎡）										
特記事項	同ビルは、事務棟と機械棟の2棟より形成されている。今後、機械棟でのデータセンタ機能拡張が予定されていることからCO2排出量としては増加傾向となる予測をしている。										

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。

注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。

注3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

注5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。

注6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。